



# 知ること広がる世界、 つながろう世界!



篠山国際理解センター  
ホームページ



**多文化共生のまち 丹波篠山市**

設立から30周年を迎えた特定非営利活動法人 篠山国際理解センター。日本語教室「うりぼう」の運営や、外国の方と市民が楽しく交流できる国際交流イベントの開催など、外国人も日本人も暮らしやすい地域づくりに尽力されてきました。今回は、30年にもわたり外国人住民に寄り添った活動を続けてきた篠山国際理解センターについて紹介します。

**多文化共生のまち 丹波篠山市**

現在、たくさんの方の外国人住民が暮らし丹波篠山市。32カ国・1110人（9月末時点）の方が住まう国際色豊かな市となっています。

1995年に設立された篠山国際理解センターは、外国人も日本人も暮らしやすい「多文化共生社会」の実現をめざし、国際理解教育推進事業・国際交流推進事業・外国人住民支援事業の3つの柱のもと活動されています。ワークショップや語学講座などで交流の機会やお互いのルーツを知り合う機会を設け、毎回さまざまな国籍の方が楽しく参加されています。

篠山国際理解センターの加賀野安那さんと志村麻美子さんは、「言葉や文化が違うからと外国人住民を特別視するのではなく、同じ丹波篠山市に住む住民として、いろんな場所でもっと外国人住民との交流が深まってほしい」と話されました。

## 多文化共生社会をめざす、丹波篠山市の取り組み



▲遠隔医療通訳システムを導入された医療法人社団紀洋会 岡本病院へ補助金支援



▲外国人市民相談窓口では、さまざまな言語で暮らしをサポート



▲多文化交流サロン



問い合わせ 地域振興課 ☎ 552-5112

## 「ややつつ日本語」でつながる世界

さまざまな国籍の住民が暮らしている中で、多言語表記や英語などでの会話が必要な場面はもちらんありますが、日本で暮らす外国人住民は日本を知り、日本語を学んでいます。そのため、実は無理に英語などで話すよりも、日本語で話す方が伝わりやすいことがあります。

### やさしい日本語の例

- 土足厳禁  
→くつをぬいでください。
- 立ち入り禁止  
→ここには、はいれません。
- 避難指示  
→とてもあぶないです。いますぐに教えてください。

### ハサミの法則

**み** つぎり言う  
**さ** いままで言う  
**は** じかく言う

そこで望まれるのは「やさしい日本語」です。やさしい日本語とは、日本語が母語ではない人や、日本語を学び始めたばかりの人にも理解しやすいように工夫された日本語のことです。外国人住民だけでなく、高齢の方や幼い子どもたちにも伝わりやすい言葉です。やさしい日本語は、阪神淡路大震災のときの反省から生まれた言葉でもあります。地震が発生した際、外国人住民には理解が難しい日本語が飛び交い、避難ができずに犠牲になった方が多くいたためです。

1文に1情報! 表情やジェスチャーでも伝わる!



## 日本語教室「うりぼう」でインタビュー!

カリフォルニア出身で、もともと日本の文化に興味があり、5年間アメリカで日本語を勉強していました。日本語は漢字を書くのが難しいけれど、意味を知ると面白いし、発音が美しく好きです。今は丹波篠山市でALTの仕事をしているので、これからもっと日本語を勉強して授業のお手伝いをしたいです。そして、もっとたくさんの人と日本語で話したいです!



マーガレット・カムさん  
日本語教室学習者

友達に誘われ、新しいコミュニティ作りのためにも支援者となりました。外国の方と話していると本当に楽しいことばかりで、市内にいながらいろんな文化を知ることができ、自分の中の世界が広がります。普段何げなく使っている言葉を教えることに難しさを感じることもありますが、異国の地で前向きに懸命に学んでいる学習者の姿にいつも感銘を受けます。



日本語教室支援者  
よどあつこ 淀敦子さん



月・水・金 9:00~16:00開局  
気軽にどうぞ

事務局の皆さん



リポーター こやまみき 小山美樹さん

**認め合って生きる**

大人はまだまだ身構えて外国の方と関わっているところもあるけれど、子どもたちは日本人も外国人も関係なく学び遊び、ときにはけんかや仲直りもして一緒に日々を生きています。そういう姿を見てみると、子どもたちに学ぶこともたくさんあるように思います。

私たちもこれから共に生きていく相手として、お互いを知って丁寧に伝え合うことを楽しめるようになりたいですね。

